

第62回 CPD セミナー・『公開講座』・防災セミナー(徳島)

1 セミナーの概要

2019年5月25日(土)に、徳島市の阿波観光ホテルにて、第62回CPDセミナー・『公開講座』・防災セミナーを開催しました。あわせて技術士二次試験合格者祝賀会も開催しました。

表1 プログラム

1. 開会 (13:00~14:00)

(1) 開会挨拶

(公社) 日本技術士会四国本部
本部長 古野 隆久

(2) 日本技術士会の紹介

(公社) 日本技術士会四国本部
広報委員長 菊池 昭宏

(3) 青年技術士交流委員会の活動紹介

(公社) 日本技術士会四国本部
青年委員補佐 武市 信

2. CPDセミナー (14:10~15:10)

演 題:『古野川の水資源開発を考える~分水
の歴史や現状を踏まえた今後の水
資源対策のあり方~』

講 師: エスシー企画
理事 山本 秀樹氏

3. 公開講座 (15:20~16:20)

演 題:『地域と再生可能エネルギー』

講 師: (一社)徳島地域エネルギー
常務理事 羽里 信和氏

4. 防災セミナー (16:30~17:30)

演 題:『平成30年7月豪雨で発生した土砂
災害』

講 師: 徳島大学大学院
社会産業理工学研究部
准教授 西山 賢一氏

5. 合格者祝賀会 (18:30~20:30)

- (1) 開会挨拶 四国本部事業委員長 富士 達雄
- (2) 乾杯 四国本部副本部長 増田 義博
- (3) 合格者の紹介
- (4) 中締め 四国本部防災委員長 天羽 誠二

セミナー参加人数は、60名、うち一般参加者は0名、祝賀会参加人数は55名、うち新規合格者は2名でした。

2 開会挨拶 古野本部長

四国本部 古野本部長の開会挨拶で始まりまし
た。



写真1 古野本部長の開会挨拶

3 日本技術士会の紹介 菊池広報委員長

四国本部 広報委員会の菊池委員長より、日本技
術士会の紹介がありました。



写真2 菊池広報委員長による紹介

4 青年技術士交流委員会の活動紹介

武市委員補佐

四国本部 青年技術士交流委員会の武市委員補
佐より、四国4県における青年技術士交流委員会
活動について、具体的な活動内容を挙げての紹介
がありました。



写真3 武市委員補佐による紹介



写真4 山本 秀樹氏の講演

5 CPD セミナー 山本 秀樹氏

CPDセミナーは、エスシー企画（株） 理事 山本秀樹氏より、『吉野川の水資源開発を考える～分水の歴史や現状を踏まえた今後の水資源対策のあり方～』と題しました講演を頂きました。

講演では、流域及び初期の水資源開発による分水の概要から始まり、穴内川分水、銅山川分水、仁淀川分水等の概要が紹介された後、分水による下流（徳島県）への対応について述べられました。特に、水不足に悩まされた宇摩地方の悲願であった“銅山川分水問題”に関しては、銅山川分水に至る経緯の説明や、当時分水反対運動の先覚者だった三木熊二の功績が紹介された後、銅山川分水の総括として、“徳島県が譲歩した要因”についての説明や、分水への譲歩が後の“吉野川総合開発計画”におおきな影響を与えたこと等が述べられました。

また、吉野川総合開発計画の説明においては、計画当初の徳島県の主張と、途中でその主張を変えた背景が紹介されました。その後、課題と対応について、①治水対策、②不特定用水、③未利用工水、④銅山川分水協定の扱い、⑤銅山川の河川環境、等のカテゴリーに分けた説明がなされました。さらに、四国3県（香川、愛媛、高知）の水事情について述べられ、今後の水資源対策のあり方が語られた後、“四国はひとつ”のキーワードで締めくくられました。

6 公開講座 羽里 信和氏

公開講座は、講師に一般社団法人徳島地域エネルギー 常務理事 羽里 信和氏をお招きし、『地

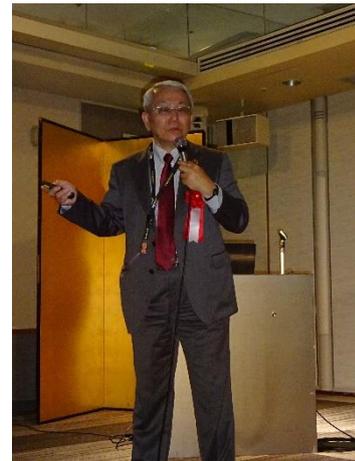


写真5 羽里 信和氏の講演

域と再生可能エネルギー』と題しましたご講演を頂きました。

講演では、まず人口減が地域に与える真のインパクトとして、2050年までに国土の7割の地域で人口が半分になり、①インフラの維持が困難、②若者の大量流出で極端な人手不足がおきる、③国土の半分で行政の機能が停止する等、衝撃的な内容が述べられました。その後、『地域の元気は再生エネルギーが支える』を合い言葉とした対策の実施例が示されました。第1に、伐採・造材から利用まで、ほぼ全てを地元で行うことが可能で、係わった全員が利益を得ることができる“木質バイオマス”の導入事例1～5が紹介されました。第2に、“洋上風力発電”で再起を図ったブレーマーハーフェンが紹介された後、洋上風力発電の検討の緊急性について述べられました。さらに、電力事業で稼ぎ、その財源で、公共交通やその他の公益的事業を財政的に支えているビジネスモデル（シュタットベルケ）が紹介されると共に、日本の現状紹介で締めくくられました。

7 防災セミナー 西山 賢一氏

防災セミナーは、講師に徳島大学大学院社会産業理工学研究部准教授 西山 賢一氏をお招きし、『平成 30 年 7 月豪雨で発生した土砂災害』と題しましたご講演を頂きました。

講演では、最初に、豪雨時の気象条件と気象・防災情報の提供状況についての説明がありました。ここでは、期間総雨量と平年値の比較結果として、以下のようなことが示されました。①豪雨が降りやすい四国(高知・徳島)では、平年の 7 月の 200% もの豪雨であっても、しばしば起こるため、広域大災害とはならなかった。②一方、豪雨が降りにくい広島・岡山・愛媛南部にとって、今回の豪雨(平年 7 月の 200~250%)は、確率的にまれな豪雨であり、致命傷となった。その後、H30 年 7 月豪雨で発生した土砂災害として、徳島県三好市の土砂災害、高知県大豊町の土砂災害、愛媛県宇和島市・西予市の土砂災害、広島県の土砂災害等について、それぞれの被災状況や特徴が述べられました。

最後にまとめとして、豪雨による土砂災害の場合、雨量の観測・解析技術の進歩により、危険時期の周知が行われるようになってきたことが述べた後、記録的短時間大雨情報や大雨特別警報の発表後は、すでに道路の寸断・冠水などにより、避難できない可能性が高いことから、土砂災害危険地域の住民は、この情報を聞いたら、早期の避難が必要であるとの注意喚起がなされました。



写真 6 西山 賢一氏の講演

8 合格者祝賀会

富士事業委員長の挨拶、増田副本部長の乾杯の音頭で祝賀会が始まり、約 2 時間の歓談の後、天羽防災委員長の中締めの挨拶で閉会しました。



写真 7 天羽防災委員長の中締め

9 おわりに

今回は、徳島県技術士会の定期総会との同時開催ということもあり、セミナー参加者 60 名のうち、会員が 36 名、非会員が 24 名と非会員の割合が多い結果となりました。また、祝賀会に出席された新合格者数は、昨年の 4 名から今年は 2 名に減少しました。

今後は、(一社)建設コンサルタンツ協会、(一社)徳島県測量設計業協会等への後援依頼や技術士会独自の広報活動を展開すると共に、セミナー内容の充実を図ることにより、出席者の確保に努めて参ります。

富士 達雄 (ふじ たつお)
技術士 (総合技術監理部門,建設部門)
四国本部事業委員長
(株)エフ設計コンサルタント